

## 2026年度グローバル・サービスラーニングA実施報告(ホームページ掲載)

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 科目名  | グローバル・サービスラーニングA 教員名 小関 隆志 |
| 実習先  | インドネシア共和国・バリ島              |
| 実習期間 | 2026年8月20日(木)～9月2日(水)      |
| テーマ  | バリ島の社会課題と歴史・文化を学ぶ          |

**目的(実習のねらい)：**サービスラーニングは地域社会のニーズを汲み取り、それに対応した支援を通し、社会に対する責任感などを養うことを目的とした実習型の科目です。

バリ島は観光地として世界的に有名で、美しい景観や独自の文化を持っていますが、地域社会は様々な課題を抱えています。孤児院や日本語学校で支援活動を体験し、また社会課題に取り組む企業・団体を訪問し、現地の大学生と交流することを通じて、社会課題にどう向き合えばよいかを考えることが、本科目の目的です。あわせて、その地域独自の歴史・文化を学びます。

**実習報告：**2週間(実質12日間)の実習内容は以下の通りです。

(1) 孤児院での活動：2か所の孤児院を訪問しました。8月24日に訪問した Angel Hearts 孤児院は主に幼い子どものための施設で、幼稚園を併設しています。この施設には、孤児はもちろんのこと、経済的に貧困の園児が無料で通っています。学生はグループに分かれて子どもたちと交流し、折り紙やゲームなどで遊びました。

8月30日に訪問した Tat Twam Asi 孤児院はティーンエージャーの女子の施設です。ウダヤナ大学の学生とともに訪問し、2つの班に分かれて活動しました。1班は子どもたちと



Angel Hearts 孤児院



Tat Twam Asi 孤児院

折り紙や紙風船などで交流し、2班は孤児院のキッチンで、スパゲティを調理してふるまいました。孤児院はとてもきれいな施設で設備も整っており、そこで暮らす子どもたちの表情も明るいのが印象的でした。子どもたちとは、言葉の壁があったものの、ウダヤナ大学の学生がコミュニケーションの橋渡しをしてくれたり、音楽に合わせて踊ったりして、楽しい時間を共有することができました。

(2) 日本語学校・専門学校での活動：Fuji 日本語学校にて、8月24日から9月1日まで5回にわたり、日本語の授業や、生徒との交流を行いました。日本語学校の生徒は、日本に行って働くことを目的に日本語を学んでいます。学生は4つの班に分かれ、各班が日本語授業のための教材を手づくりしました。日本語学校は初級クラス、標準クラス、中級クラス、会話クラスと能力別に分かれているので、生徒が各々の能力に応じて楽しく学べるように、教材作りや授業運営に様々な工夫を凝らしました。一方的に知識を教えるのではなく、できるだけアウトプットをさせること、日本に

行ってから生活するうえで役に立つ実用的な知識を盛り込んだゲームやクイズを出すこと、日本の名所や食べ物、お祭りなどの文化的側面を楽しみながら理解できるようにすることなど、知恵と工夫がいっぱい詰まった授業でした。

8月28日に訪問したクルタ・ウィサタ専門高校では、お箸の使い方や紙飛行機づくり、日本アニメ紹介、椅子取りゲームなど日本の文化を高校生に体験してもらいながら交流活動を行いました。



写真左：クルタ・ウィサタ専門高校  
写真右：Fuji 日本語学校

### (3) 社会課題、歴史・文化に関連した調査および見学

ウダヤナ大学社会政治学部と提携し、同学部の Sukma 教授、Titah Resen 教授、Mashita 教授の協力を得て、学生の関心あるテーマに沿って、調査見学を行いました。

8月26日に学生は観光班と文化班に分かれ、それぞれの班にウダヤナ大学の学生がバディとして参加・同行しました。

観光班は①日本企業の海外進出の状況を知りたいということから、SUZUKI 自動車の現地法人を訪問し、同社の販売戦略についてお話を聴きました。また②高級すし店の ABURI SUSHI を訪問し、現地消費者の嗜好に合わせたメニューを開発・提供していることを学び、さらに③観光業の中核をなすホテル業界の HOTEL ALOFT では顧客体験の向上と持続可能な運営の両立に注力していることを聞きました。

文化班はバリ島の伝統文化の継承に関心をいだき、①織物工房の Endek Sekar Jepun を訪問して染色や機織りの作業を体験するとともに、②バリ島の伝統料理を今に伝えるレストラン Nasi Tekor Bali では現地の食事作法についても学びました。



写真左：SUZUKI  
写真右：Endek Sekar Jepun

環境保全に関しては、(1) 8月23日に Bali Waste Management Training Centre (BWMTTC) を訪問しました。生態系保全や資源節約の観点からリサイクルの重要性と、同センターを運営するロータリークラブの活動について説明を受けた後、廃油を使った石鹸づくりを体験しました。(2) 8月29日にマングローブの森を訪れ、若い苗木を植林しました。机上の知識だけにとどまらず、実際に手を動かすことで、改めて環境保全の意義の理解が深まったようです。

写真左：  
BWMTCにて石  
鹸づくり  
写真右：マング  
ローブの森にて  
植林体験



歴史・文化学習としては、バジュラ・サンディ (Bajra Sandhi) 博物館を見学しました。インドネシアの歴史を古代から現代まで、数多くのジオラマセットとともにわかりやすく伝えている博物館で、とりわけインドネシア共和国の建国と独立に重きを置く社会教育機関です。ここでは、太平洋戦争中に日本軍がインドネシアを占領統治した時代の説明もあ



り、日本人としてこの戦争の歴史に向き合う

必要性を感じさせるものでした。博物館の中央にそびえる尖塔（モニュメント）は遠くからでもよく目立ち、その頂上に登り詰めるとデンパサール市街を一望できました。



このほか、バロンダンスの鑑賞、ウブドの棚田やビーチ、キンタマーニ高原など名所の訪問、バリ島の食文化を象徴する各種の食べ物など、バリ島の豊かな自然と文化を味わいました。



写真左上：ウブ  
ドの棚田を散策  
右上：バロンダ  
ンス（ダンサー  
とともに）

左下：キンタマ  
ーニ高原にて、  
バトゥール山を  
望む



右下：ビーチに  
てサンセットを  
背に

**成果:**バリ島の社会課題に関しては、日本語学校での授業や生徒との交流を通して、現地の多くの若者が日本など海外に出稼ぎに行くことで収入とキャリアを手に入れようとしている現実を目の当たりにしました。日本国内の各地で外国人労働者をよく見かけるものの、彼らの素顔を知り交流する機会には乏しいのが実情です。学生は今回の実習を通じて、違う角度からリアルな外国人労働者問題を認識できたはずです。

環境保全については、廃油を再利用した石鹸づくりや、マングローブの植林を体験することを通して、どのように対策を進めるべきかのヒントを得られました。

インドネシアおよびバリ島の歴史・伝統文化を学ぶ機会にも恵まれました。観光客のように鑑賞・体験をして楽しむというだけにとどまらず、価値ある伝統的な織物や料理をいかに絶やさず後世に伝えていけるかという持続可能性を考察し得た点は、今回の実習の成果の一つでしょう。

日本語学校での授業を設計・運営することは学生にとって初めての経験であり、事前にかかなりの時間をかけて準備を整えたとはいえ、実際の授業運営においては当初の想定と異なり、戸惑うこともあったようです。それでも機転を利かせて、主体的に判断し、柔軟に対応できたこと、チームワークを活かして成功裏に実行できたことは、大きな成長だったといえます。

ウダヤナ大学の学生や日本語学校の生徒との交流を通じて、コミュニケーション能力を鍛えられました。これは単なる英会話練習や語学力向上というよりも、相手を深く理解し信頼関係を築いて、共通の目的に向かって共に歩む能力とでもいうべきものですが、孤児院での活動や調査見学を通じて、こうした能力を大いに高めることができました。